

よえもん

-yoemon-

2014年11月

第 19 号

シリーズ
よえもん

藤澤への道



お殿さまのお許しが待ち切れなくなったよえもんさんは、お許しなく大洲藩を出る決心をしました。これを脱藩といい、当時は追手にとらえられる重罪でした。しかし、お母さんが心遣いよえもんさんは、殿さまから頂いたお米を返せるように支度をし、家具も残して、とと大洲を逃れ出ました。

約半月後、小川村へ帰ったよえもんさんを、お母さんは涙を流して抱きしめました。そして、ただひとりお供をしてくれた七助にお礼をいってお金を渡し、別れました。

大洲のお殿さまのおとがめを心配したよえもんさんは、京都の友達の家に、しばらくとめてもらうことにしました。しかし、事情がよくわがっていたお殿さまは、おとがめなく追手もさし向けなかったため、よえもんさんは安心して小川村へ帰ったのです。命をかけてふるさとへ帰ったよえもんさんは、心温かな村の人口の中で、自由でのびのびとした生活ができることを、心から幸せに思いました。

今月のことば

貴も賤も
智あるも愚なるも
生とし生る人
その子を
愛せざるはなし

書・洲田瑞穂さん
出典・鑑草

「身分の高い人も低い人も、かたい人もおろかな人も、生きているものはすべて、その子供を愛するものである」という意味です。親は無条件に子を愛し、子はその無条件ゆえに親を敬う。この無私心が、藤樹のいう孝行をするためのもとなのです。

「孝経」読破公開講座

11月22日を第1回として、月一回、計五回で、中江彰史を講師として迎え開催します。温故知新！この時代だからこそ、二千年前の知恵を学んでみませんか？
応募申込用紙は、各支所・公民館などにあります。

中江藤樹「生誕の地」スタンプラリー

道の駅、記念館、藤樹書院の3ヶ所のスタンプを集めて、道の駅で記念グッズをもらおう！！

小・中学生は無料で参加できます。

